

オアシス新聞

第三十四号
目にも涼しい夏の竹

春のお楽しみであるだけのこの季節はあっという間に終わり、今はさわやかな青竹の季節です。今年伸びた竹はうっすらとロードのような産毛をまとった、やわらかな緑色をしています。生えそろった若葉も、みずみずしい緑色できれいですね。どんなに暑い日でも、よく手入れのされた美しい竹林を見ただけで、なんとも涼しげな気分になるものです。

ところで少し前は竹林が全体的に茶色っぽかったことに気がつきましたか？たけのこは一晩で1m伸びると言われるほど成長の速い植物なのですが、それだけにたくさんエネルギーが必要なのでしょう。ちょうどたけのこがグングン出てくる季節には、今まで緑色をしていた竹の葉が、疲れたようにみんな茶色くなって、ぽろぽろと散りだします。これを『竹の秋』と言い、俳句の世界では春の季語となります。その後新しい葉が出揃って、竹の葉が元気に茂るさまを『竹の春』といい、秋の季語となります。竹の季節は通常とは逆になるのですね。

たけのこというと当然のように店頭に出回る大きくて太い孟宗竹（モウソウチク）のものを思い浮かべますが、たけのこにもいろいろな種類があります。孟宗竹に似ているけれど、少し稈（かん）、いわゆる幹のような部分（）が細い真竹（マダケ）は、孟宗竹のたけのこがすっかり終わったころに伸びてきます。そして掘り取るのではなく、地上に出てきたたけのこを、折り取って収穫します。成長した真竹は稈が丈夫で加工もしやすいので、繊細な竹細工として使われるのは、この真竹となります。それから山菜料理によく使われる細いたけのこは、根曲り竹や姫竹とも呼ばれる千島笹（チシマザサ）です。孟宗竹や真竹はどちらかというと暖かい地方の植物なので、東北などの寒い地域では、千島笹のたけのこが主流となります。ところ変わればたけのこも変わるようですね。

今のように原材料が豊富ではなかった時代竹は何にも加工ができる万能の材でした。食器・建造物・遊び道具...想像力と創作力を持てれば使い方は無限!!



たけのこのさうめんが割竹の上を流るだけで一度はやってみたいあこがれのころそうに変身!!

節が1段 孟宗竹 節が2段 真竹
節を見ると見分けが出来ます

竹の花は涙多に咲かないので、見たことがある人は、少ないと思います。しかも花を咲かせた竹は枯れると言われており、そして花が咲くのは約60年に1度だとか、イネ科の花なので、キレイな要素はなにもないが...

竹こっぽうの作り方

- ① 細い竹を、適当な長さで切る cut ← 節
- ② 少し短かめ、竹筒の穴にぴったりあてまる棒を差す
- ③ 湿らせた新聞紙の玉を押し込む
- ④ もうひとつ玉を詰めて、勢いよく突くと、先に詰めた玉が飛び出す